

第1回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

■開催日時 令和7年10月17日（金）午後2時～午後4時15分

■開催場所 人吉市役所2階 201・202大会議室

■出席者 ビジョン懇談会委員名17/24名中の出席

No		団体名(所属)	役職名	氏名(フリガナ)	
1	人吉市	熊本県立大学 総合管理学部	教授	井田 貴志	出席
2		人吉市医師会	監事	岐部 明廣	出席
3		人吉温泉観光協会	副代表理事	川野 精一	欠席
4		球磨焼酎酒造組合	代表理事	深野 誠一	欠席
5		人吉商工会議所	専務理事	今村 修	出席
6		くま川鉄道株式会社	取締役社長	永江 友二	出席
7	錦町	球磨地域農業協同組合	理事(金融共済専門委員)	久保田 徳男	出席
8		錦町農業委員会	農業委員	尾方 安枝子	出席
9	多良木町	球磨郡公立多良木病院企業団	事務長	黒木 政裕	出席
10		多良木町文化協会	会長	太田 千里	出席
11	湯前町	湯前町文化財保護委員会	会長	溝下 昌美	出席
12		湯前町区長会	会長	中武 義秋	出席
13	水上村	水上村立保育所	所長	椎葉 由美	出席
14		水上村社会福祉協議会	福祉活動専門員	中原 奈々	欠席
15	相良村	相良村商工会	青年部長	川上 大和	欠席
16		相良村有害鳥獣捕獲隊	隊長	岩田 明博	欠席
17	五木村	(株)子守唄の里五木	駅長	井元 淳	欠席
18		五木村観光情報センター	センター長	仮山 常雄	欠席
19	山江村	NPO法人 かちゃリンクやまえ	専務理事	本山 民子	出席
20		山江村民生委員児童委員協議会	会長	谷川 安照	出席
21	球磨村	球磨村教育委員会	教育委員	中井 久美	出席
22		球磨村森林組合	参事	犬童 大輔	出席
23	あさぎり町	あさぎり町婦人会	会長	梅田 美恵子	出席
24		あさぎり町農業委員会	委員	橋口 京美	出席

【幹事会】

市町村名	課名	職名	氏名
錦町	企画観光課	課長	中村 裕二 代理 塩井 裕樹 主幹
多良木町	総務課	課長	東 健一郎
湯前町	企画観光課	課長	伊藤 賢一郎 代理 多田 恵太 主事
水上村	総務課	課長	田代 浩章 代理 那須 恵 係長
相良村	企画商工課	課長	佐竹 淑子
五木村	総務課	課長	竹村 文秀
山江村	総務課	課長	蕨野 明憲
球磨村	復興推進課	課長	蔵谷 健
あさぎり町	企画政策課	課長	万江 幸一朗

【オブザーバー】

熊本県南広域本部 球磨地域振興局	総務振興課	課長	立山 亮 代理 佐藤 弘康 主幹
---------------------	-------	----	---------------------

【部会事務局】

部会名	検討母体	事務局 市町村	担当課	役職	氏名
救急医療部会	(球磨圏域保健衛生協議会でまとめている)	多良木町	住民ほけん課	課長	竹下 政孝
発達相談部会	球磨圏域乳幼児発達相談事業運営協議会				
障がい者(児)部会	人吉球磨障がい者総合支援協議会	人吉市	福祉課	主幹	今村 紀仁
文化部会	球磨地域文化財広域連携協議会	人吉市	文化課	係長	岸田 裕一 代理 手柴 友美子 主席
観光部会	市町村企画・観光担当者会議	人吉市	商工観光課	主幹	山室 義広
農業部会	くま農業活性化協議会	あさぎり町	農林振興課	課長補佐	樫木 寿礼
林業部会		人吉市	農林整備課	課長補佐	坂口 貴司
しごと創生部会	人吉・球磨しごと創生連絡協議会	あさぎり町	商工観光課	参事	岩本 祐一郎
鳥獣害対策部会	球磨地方公有林経営協議会	多良木町	農林整備課	主事	上村 安寿磨
消費生活部会	人吉球磨生活支援ネットワーク	人吉市	地域コミュニティ課 (消費生活センター)	課長補佐 (兼係長)	高澤 絹代
地域公共交通部会	人吉球磨地域公共交通担当課長会	人吉市	交通政策課	主幹	鎌田 竜一 代理 米原 行宏 主幹
人材育成部会	人吉球磨総務担当課長会	人吉市	総務課	課長	那須 裕史

【事務局】

人吉球磨定住自立圏推進協議会事務局	人吉市	復興政策部 復興支援課	部長	田副 勝裕
			課長	井上 敬明
			係長	古賀 靖章
			主任	山本 和也
			主任 【担当】	島田 祐芽

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 会長及び副会長選任

事務局提案により、井田委員が会長、太田委員が副会長に就任。

- 5 会長挨拶

近年、熊本県内の自治体で様々な取組があり、県央・県北の大規模なプロジェクトが目立つ。人吉球磨の定住自立圏は、異なる自治体が結んだ県内初の定住自立圏ということで、圏域の自治体が相互補完をしながら、様々な分野で補い合い、地域・圏域として成長していこうという取組。

人口減少が進む中、県南の人吉球磨地域が持続可能な発展をしていくためにどうすればよいのか、また水害からの復旧復興がどのくらい進んでいるのか。インフラの整備はかなり進んできたが、ソフト面、ハード面共にこれからの復旧を見越して、様々な分野の取組を図っていきたいと考えている。

委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から、忌憚のない意見を賜りたい。

- 6 議事（１）人吉球磨定住自立圏共生ビジョン概要について
 - （２）第２次共生ビジョンの令和６年度実績報告及び最終報告について
 - （３）第３次共生ビジョンの令和７年度取組内容について
- 7 その他
- 8 閉会

■ 議事内容

議事（１）人吉球磨定住自立圏共生ビジョン概要について

資料１に基づき事務局から説明

- ・定住自立圏構想の概要
- ・本圏域の定住自立圏形成とこれまでの経緯

議事（２）第２次共生ビジョンの KPI 最終達成状況について

資料２に基づき事務局説明

【委員からの主な意見】

< 発達相談部会 >

- ・発達障がい児外来の実施回数や、相談件数が K P I となっているが、圏域で潜在の対象者が何名いて、そのうち支援を受けた方、相談に来た方が何名いて、その比率についての把握はされているのか。その部分が把握できていない状態で達成率が 100%と言われても、支援が必要な方の声が行政サイドに伝わっているのか疑問。

<救急医療部会>

- ・救急医療体制充実事業の今後について。休日在宅医療への参加医療機関数というK P Iは救急医療体制の充実とは関係がない。救急医療機関が断っている件数（または受入件数）や、医療センターが手術中で受入れできず域外に搬送される件数などを指標とすることを検討してほしい。

<農業部会>

- ・球磨焼酎の原料米について、生産量は減っているのか。酒造関係者からは、価格高騰もあり原料米の購入に支援を要望する声もある。人吉市では控除制度が始まったが、球磨焼酎が日本遺産の構成要素であり、圏域の特産品であるため、球磨焼酎を絶やさないためにも、安定した原料米の生産・供給をしていただけるように施策をお願いしたい。
- ・農業は「令和の米騒動」もあったが、球磨焼酎は「球磨」を冠することのできる世界ブランドであるという認識をもって、もっと世界へ展開できるように、市場開拓、規模拡大する取組を進めてみては。
- ・農業の後継者不足について。高校生・大学生が就職するときに一次産業は選択肢に上がりにくい。かなりハードルは高いが、一次産業が就職先となるような「魅力ある農業」「稼げる農業」となるために、スマート農業の展開や魅力をアピールできるような素材づくりをお願いしたい。

<文化部会><観光部会>

- ・文化財について、教育委員会が持っている以上、保護保全はできても十分な活用はできない。文化課が保全したものを、観光DMOがきちんと活用し、観光資源として人吉球磨の回遊性を持たせるような観光プロジェクトを組むという流れを作してほしい。
- ・K P Iでは、観光DMOがどのようなデータを収集できたかを測るべき。それによってDMOが機能しているかがわかる。観光の核はいくつかある（夏目友人帳や青井阿蘇神社など）ので、それをいかにデータに基づいて分析して、周遊プランを作るか。部会の連携・棲み分けについても、各部会検討していただきたい。
- ・地方創生の交付金が充実していると思うのでどんどん活用してほしい。人吉球磨に住む人が「自分の地域が観光地である」と認識し、機運が高まることが大切。行政だけでは限界があるので、民間の力を活用して事業展開していただきたい。

<しごと創生部会>

- ・地場産業支援のK P Iは企業誘致の数だけとなっているが、取組内容を見ると事業承継や起業創業もあり、県内でも支援の動きがある。事業承継や起業の件数が細かくあれば、よりわかりやすいと考える。K P Iに設定できなくても、成果報告いただきたいので部会で検討いただきたい。

<消費生活部会>

- ・消費生活の被害回復率について、県平均値を把握し、圏域の平均値とで開きがあるならば、そこを埋めていく取組が必要ではないか。
- ・消費生活相談について、住民は自分の住む自治体にはいかない傾向があるので、警察にも協力を仰ぎ広域連携の仕組みができた。被害回復率を高くするためには、消費生活講座が重要だと思うので、取り組んでいただきたい。

<人材育成部会>

- ・ 人事交流の事業費について、多くの自治体が「検討中」となっている。民間の給与水準の方が高い昨今、採用人事で優秀な人材を採ることが成長には不可欠。ここの「検討中」が多すぎるのは残念である。
- ・ 県、国で経験をして市町村へ帰り、事務分掌や仕事の水準を引き上げる。人事交流という意味では、国や県から圏域への受入数も指標として有効ではないか。部会で検討いただきたい。

<全体を通して>

- ・ K G I（最終目標/長期的な目標）が変わらなければよいので、K G I をきちんと認識した上で、K P I（重要業績評価指標）の設定について、もう一度各部会で検討していただきたい。
- ・ 実施する事業を絞れば、より注力でき職員の負担が減るのではないか。
- ・ 事業費について、定住自立圏の交付税からどのくらいの金額、割合が出ているのかがこの資料ではわからない。
- ・ 各自治体に総合計画や総合戦略など、またその下に個別計画を策定されているが、それら上位計画に位置付けられていない取組については、補助金を申請できない。また要綱に細かい変更等があり、申請できないということにならないように、県・国との人事交流で情報を得て、交付金を確実に取れるようにしておくことが重要。
- ・ 個々の自治体がきちんとしていないと定住自立圏は成立しない。お互いの弱点を補完しあえる事業をビジョンへ計上し、圏域の人口減少を少しでも食い止められるような施策を考えていただきたい。
- ・ 個別自治体で行っている施策ではなく、圏域で相互補完して取組むべきことを、K G I できちんと認識し、K P I で進捗を図っていく。人吉球磨の10年後をどうするのか、という視点で考えて、施策を展開していただきたい。